

第2回 ソイタウンバドミントンキャンプ2018報告書

特定非営利活動法人アルファバドミントンネットワーク



【イベントの目的】

地域のバドミントン選手、愛好家を対象に、大人から子どもまでがレッスンを通じてバドミントン競技を学び、集える機会を提供する。

【内 容】

各世代、目的別のレッスンや講演会をワークショップ形式で展開した。

実施日：2018年12月8日（土）

場所：野田市関宿総合公園体育館

延べ参加者数：155名

スタッフ：39名

18名（ワークショップ講師・指導者及び運営スタッフ）

21名（サポートの高校生）

【各ワークショップ概要】

①ジュニア・ビギナーズ教室

講師：後藤秀徳氏 他

対象：小学生、中学生

サブアリーナにて 13:30～16:00

参加者：36名

参加費：500円

初心者の小学生（9名）は、ウォーミングアップ後メインアリーナに移動して中学生と分かれて活動した。風船やシャトルを使ったゲームから始まり、スタッフとシャトルを打ち続ける楽しみを体験した。

中学生はサブアリーナで、レベル別3グループに分け、ノック練習の他、西武台千葉高校バドミントン部員がヒッティングパートナーを務め、基本ストローク、パターン練習等を行った。

②レディースダブルス基本練習

講師：梅野尾悦子氏他

対象：女性

メインアリーナ 8面 9:30～12:30

参加者：34名

参加費：1000円

梅野尾悦子氏指導の下、西武台千葉高校バドミントン部員がヒッティングパートナーを務め、基本ストローク練習、パターン練習を繰り返した。途中で途切れない長いラリーを繰り返しながら、充実した強度の高いパターン練習が行われた。

③ハイレベルダブルス強化練習

講師：高瀬秀雄氏他

対象：高校生以上

メインアリーナ 7面 13:30～16:30

参加者：27名

参加費：1000円

高瀬秀雄氏指導の下、高校生がヒッティングパートナーとなり、西武台千葉高校バドミントン部の通常の鍛錬期に行うダブルスの各種ノック練習を体験した。その後ゲームができるまで発展させた。

④シニアダブルス練習

講師：大和田勉氏他

対象：シニアの愛好家

サブアリーナ 3面 9:30～12:30

参加者：15名

参加費：1000円

大和田勉氏指導の下、高校生をヒッティングパートナーにパターン練習が行われた。午後の部に申し込んだ小中学生、大学生が加わり、老若男女が参加する楽しみながら各種技術を学ぶレッスンとなった。

⑤講演会 I

講師：白井巧

講義室 10:30～12:00

参加者：14名

参加費 無料

「バドミントン de 世界とつながる」をテーマに、青年海外協力隊を通じたバドミントンの国際貢献のあり方を体験談を交え講義した他、参加者同士による交流実践プログラムが行われた。

⑥講演会 II

講師：梅野尾昌一氏 司会・進行：稲田聡

講義室 13:30～15:00 参加者 29名

参加費：無料

「バドミントン VIEW & TALK」と題し、映像を交えながら梅野尾昌一氏が解説を加え、競技をより深く味わうトークセッションを行った。講師の選手、監督時代の逸話を交え、昨今のバドミントン事情について話しあった。

【参加者数-地域別、カテゴリー別】 延べ 155名

第2回ソイタウンバドミントンキャンプ参加者数

	野田市内	他千葉県	千葉県合計	埼玉県	茨城県	神奈川県	東京	合計
①ジュニア	3	1	4	26	4	2	0	36
②レディース	10	14	24	7	2	1	0	34
③ハイレベル	3	4	7	9	3	8	0	27
⑤シニア	2	2	4	5	0	5	1	15
⑥講演会Ⅰ	4	0	4	0	0	7	3	14
⑦講演会Ⅱ	-	-	-	-	-	-	-	29
								155

【進行】

8:45 開場、スタッフ集合

8:50 受付

9:30～12:30 ワークショップ午前の部

12:30～13:30 休憩

13:30～16:30 ワークショップ午後の部

16:30～17:00 片付け

【収支報告】

収支報告

収入の部

費目	金額	
参加費	95000	
団体自己資金	92974	
助成金	100000	ヨネックススポーツ振興助成
協賛金	40000	野田市バドミントン協会
収入計	327974	

支出の部

費目	金額	内訳
会場設営費	43510	
消耗品(シャトル)	148000	
その他消耗品	7750	
通信運搬費	1657	
印刷製本費	10822	チラシ2000枚、プログラム200枚
看板	20520	
謝金	70000	
交通費	0	20人分
イベント保険	2200	
参加賞	7515	封筒
弁当	16000	
支出計	327974	
差し引き	0円	

運営資料印刷費は団体で別途負担した。
高校生スタッフの謝金と弁当はなし。

【総評】

各ワークショップ毎に参加者の課題に応じた独自のメニューを展開し、それぞれに充実した活動が行われた。年齢やレベルに応じた技術や戦術指導により、地域の競技力向上に寄与できたものと評価できる。さらに、参加者同士の交流やスタッフとして参加した西武台千葉高校バドミントン部員との交流を深めることができ、青少年の体験活動としても評価できる。

各ワークショップ合わせて延べ155名が参加した。野田市のみならず県内、埼玉県、茨城県、神奈川県、東京都から参加があり、広い地域に向けて活動を展開することができた。定員に余裕があるワークショップがあったことから、次回は募集方法を検討したい。